

# 狩野派絵画と 子どもの表現

笠原 彩 (和歌山大学教育学部附属小学校)

## 題材コンセプト

日本絵画には多様な様式や空間再現が見られ、それらを代表するものとして狩野派絵画を2題材提案する。狩野永徳の『檜図屏風』、そして同じく永徳の『洛中洛外図屏風』である。この2作品の特徴的な空間再現や様式、技法を鑑賞し、体験的に理解させる。さらに協同的な学びを視野に入れつつ、インスタレーションを通して身体全体で作品の表現と鑑賞を有機的に結びつけるダイナミックな活動にしたい。

### 〈題材1〉狩野派風「根上松」を描こう

#### 1. 題材について

本校のシンボルツリー「根上松」を『檜図屏風』に見られる大胆な構図、水墨画の線描や金による装飾等、狩野派絵画の技法や様式を取り入れて描く。西洋の遠近法の写実的な表現でなく日本絵画の伝統的技法を体験的に理解すること、そして個々の作品を子供たち自身で並べる活動(インスタレーション)を取り入れることによって、リアルな空間再現を体験してほしいと考えた。

#### 2. 学習目標 (第6学年)

- (1) 『檜図屏風』の空間表現や様式、技法に興味を持ち、すずんで技法を取り入れて描く。
- (2) 「根上松」の大きさや形から、イメージをふくらませて多様な線や形をいろいろ試す。
- (3) 自分のイメージに合わせて線の描き方や表現の仕方を見つかったり、構図を工夫して描く。
- (4) 狩野派絵画のよさや美しさに気付いたり、して並べながら身体全体を使って「根上松」のイメージを感じ取る。



## 3. 学習の流れ・指導計画

- 第一次: いろいろな「線」をみつけよう～『檜図屏風』と『松林図屏風』の鑑賞。
- 第二次: 「根上松」をスケッチしよう。
- 第三次: いろいろな「線」をかいてみよう。
- 第四次: 狩野永徳風「根上松」をかこう。
- 第五次: みんなでひとつの「根上松」(インスタレーション)。

## 4. 指導のポイント・学びのフォーカス

鑑賞活動では、永徳と等伯の2作品を比較しながら水墨画の多様で豊かな線の表現を理解する。その後、刷毛と墨で線を描く運筆練習をする。リズムや力の加減、速度などに変化をつけて自分の「線」を見つめる。

スケッチは『檜図屏風』の構図を参考に、根上松の特徴的な部分を切り取る。運筆練習とスケッチを基に、本番の水墨画へ。根上松のイメージを大切にした構図と線描を



和歌山大学教育学部附属小学校 6年生  
指導: 笠原 彩, 2011

意識させる。インスタレーションは、身体や視点を動かしながら「根上松」のイメージをみんなでつくり、表現と鑑賞の活動が同時に行われるようにすることがポイントとなる。

## 5. 鑑賞と批評

子どもたちは地面から力強く生えている松を描くとき、まるで自分が「松」になったかのごとく、画面の下からぐいぐいと刷毛で力強くリズムカルな線を描いていた。真剣な表情で描かれたその線は迷いがなく、元気で、深い、本物の線。写実的再現とは違う狩野派絵画特有のリアルな空間再現をそこに見ることができた。

〈題材2〉：鳥の目になって飛び回ろう

～5年O組「洛中洛外図」～

### 1. 題材について

『洛中洛外図』は高い視点から見下ろした構図と建物内部や人物などの緻密な描写が特徴的である。それが手前（近景）から奥（遠景）へと視線を漂わせることによって奥行きを感じさせたり、臨場感を味わうことになる。さらに画面を覆う装飾的な金色の雲は、空からの視点で町並みを眺めているような効果がある。また、『洛中洛外図』に見られる平面性や装飾性は子どもにとって身近で親しみやすい表現である。そして斜投影の描法によって俯瞰的に示される画面は、視線と身体全体で空間を体験できるようなリアルさを持っている。この特質をいかし、クラスの共同作品として個々の作品をインスタレーションし、身体全体を使う鑑賞活動として子どもに体験させたい。

### 2. 学習目標（第5学年）

- (1) 『洛中洛外図』の空間表現や様式、技法に興味を持ち、楽しみながらすすんで取り入れて描く。
- (2) 自分のイメージした家に近づくように、色や形などいろいろ試す。
- (3) イメージに合うように色や形を工夫し、斜投影シートの使い方を理解して描く。

- (4) 『洛中洛外図』のよさや美しさを味わい、身体全体を使ってリアルな空間再現をして感じ取る。

## 3. 学習の流れ・指導計画

- 第一次：『洛中洛外図屏風』をあじわう。
- 第二次：『5年O組の洛中洛外図』を描く。
- 第三次：インスタレーションと鑑賞。



### 4. 指導のポイント・学びのフォーカス

鑑賞活動では、俯瞰的な構図や緻密な表現の効果やよさをじっくりと味わう。自分の夢の家や店のイメージを大切にイメージスケッチをし、斜投影シートを使って俯瞰的に描く。家具や商品など、なるべく細かく描くように指導する。絵の具で仕上げた作品を全員で洛中洛外図になるように、配置を考えながら金画用紙でつくった雲を入れながら並べる（インスタレーション）。

### 5. 鑑賞と批評

視線や身体全体を動かすインスタレーションを写実的再現とは異なる「リアルな体験」として、子どもたちは楽しんでいたように感じた。日本絵画の空間再現の多様性をこれからも伝えていきたい。



和歌山大学教育学部附属小学校5年生 指導：笠原 彩2011